



2025年度 年次総会 議事次第

一般社団法人 国際P2M学会

日時： 2025年4月19日土曜日 12:30～13:15

開催形式： 対面（東京都市大学 横浜キャンパス）

議事

学会会員数の報告

議長と総会開催要件の確認

第1号議案 2024年度学会活動報告及び決算の承認に関する件  
事業活動報告、事業収支報告、監査報告書

第2号議案 2025年度学会活動及び収支計画の承認に関する件  
基本方針と事業活動計画、事業収支計画

第3号議案 定款の改定

第4号議案 人事

第5号議案 名誉会長の推薦

報告事項 学会表彰

## 学会会員数の報告

定款第5条会員の規定による分類に従い、2025年4月19日の学会会員数を報告する。

|   |      |                            |
|---|------|----------------------------|
| ① | 正会員  | 140名                       |
| ② | 法人会員 | 6社                         |
| ③ | 学生会員 | 17名                        |
| ④ | 名誉会員 | 4名（学会に貢献した外国人研究者及び名誉会長・会員） |

以上

## 議長と総会開催要件の確認

### 1 開催と議長

当学会（一般社団法人）の定款では「社員総会」（4章）について年に1回4月か5月の開催、必要がある場合に開催する（13条）、「総会の議長は、代表理事（会長）がこれに当たる」（16条）との規定がある。これにもとづき社員総会を開催する。

### 2 総会成立要件

社員総会は、正会員をもって構成する（第11条）。成立要件は「社員総会の決議は、法令又はこの定款に別段の定めがある場合を除き、総社員（会員）の議決権の10分の1以上を有する社員が出席し、出席した当該社員の議決権の過半数をもって行う。ただし、(1)社員及び会員の除名、(2)監事の解任、(3)定款の変更、(4)解散、(5)その他法令で定められた事項（議事録）の議決は、総社員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。」と規定されている。

（第18条）

以下成立要件を確認する。

総社員数 140名（正会員140・学生会員17・法人会員6・名誉会員4）

出席者数 101名（委任状80名を含む）

以上の数を確認の結果、総会の成立ならびに定款変更などの議決も可能であることを認めることにする。

### 3 総会の権限

社員総会は、次の事項について決議する（第12条）とある。関連議案があるので、ご参照をお願いします。

- (1) 社員及び会員の除名
- (2) 理事及び監事の選任又は解任
- (3) 理事及び監事の報酬等の額
- (4) 貸借対照表及び損益計算書ならびにこれらの付属明細書の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 解散及び残余財産の処分
- (7) その他社員総会で決議するものとして法令又は本定款で定められた事項

(議事録)

第19条 社員総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 前項の議事録には、議長及び社員総会において選任された議事録署名人2名が、記名押印する。

よって、議事録署名人2名の選任を行う。

以上

## 【2024年度学会活動報告】

(事業期間：2024年4月1日～2025年3月31日)

(敬称略)

### 1. 運営委員会を中心にした4つの委員会の連携活動

運営委員会は、研究発表大会、論文誌、P2Mマガジン、セミナーの4つの活動行う委員会と連携して、月1回の頻度で合計11回の会合を行い、学会が目指すビジョンの達成に向けて事業を進めた。

### 2. 博士人材と指導教員の醸成 SIG

日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ) に連携し、「博士人材と指導教員の醸成 SIG」を下記のメンバーで2024年10月23日(水)に立上げ、PMAJ 会議室で第1回会合 (SIG : Significant Interest Group 活動主旨、目的の共有) を開催した。PMAJ SIG 事務局で、継続的に新規メンバーを募集中である。12月2日に2回目会合 (博士学位取得方法解説) を開催した。

[発起人] 白井久美子 (PMAJ・副理事長、国際 P2M 学会理事・副会長、  
BIPROGY グループ・ユニアデックス(株) 元常務執行役員、  
(株)明電舎 社外取締役)、博士 (工学)、PMR

[メンバー] 加藤亨 (PMAJ・理事長)、技術士  
亀山秀雄 (国際 P2M 学会 (IAP2M) 代表理事・会長、東京農工大学名誉教授)、  
山本秀男 ((IAP2M) (元会長) 理事・事務局長、中央大学名誉教授)、  
久保裕史 (PMAJ・理事、(IAP2M) 理事・副会長、千葉工業大学元教授)、  
玉木欽也 ((IAP2M)・評議員、青山 Hicon (株)代表取締役、青山学院大学教授)、  
深谷靖純 (PMAJ・事務局部長)、  
宮本文弘 (PMAJ 会員、BIPROGY グループ BIPROGY(株)、MBA、PMR)

### 3. (株)JOA ホールディングとの連携によるマネジメント教育の展開

久保副会長主導の下、(株)JOA ホールディングと連携して、社会人向けの WEB 動画作成と GX アクセラレーションシンポジウム 2024 を開催した。

#### 4. 研究発表大会の企画と実行

##### (1) 第37回春季研究発表大会

開催日 : 2024年4月20日(土)

開催校 : 千葉工業大学 津田沼キャンパス 7号館4階

開催形式 : 会場と配信のハイブリッド

基調講演 : 「教育改革による大学力強化」

講演者 : 小宮 一仁 (千葉工業大学学事顧問/工学部教授)

[ラウンドテーブル]

テーマ1 : 「GX人材育成のプログラムマネジメント」(現地会場開催)

オーガナイザー : 久保裕史 (国際P2M学会)

テーマ2 : 「P2Mで語る地域活性化」(ハイブリッド開催)

オーガナイザー : 岡田久典 (早稲田大学)

テーマ3 : 「P2Mを活用した現場改善」(ハイブリッド開催)

オーガナイザー : 小笠原秀人 (千葉工業大学)

実行委員長 : 千葉工業大学プロジェクトマネジメント学科 教授 小笠原秀人

実行副委員長 : 千葉工業大学 経営情報科学科 教授 新谷幸弘

大会企画委員会委員長 : 沖浦文彦 (大阪経済大学 国際共創学部 教授)

大会企画委員会副委員長 : 小笠原秀人 (千葉工業大学 社会システム科学部教授)

予稿集編集委員長 : 中野健太郎 (早稲田大学環境総合研究センター 主任研究員)

##### (2) 第38回秋季研究発表大会

日時 : 2024年11月9日(土)

開催校 : 青山学院大学 青山キャンパス

開催形式 : 会場と配信のハイブリッド

テーマ : 「SDGs/ESG/CE サステナビリティとP2M」

実行委員長 : 青山学院大学 経営学部 教授 玉木欽也

実行副委員長 : 青山学院大学 経営学部 教授 中邨良樹

大会企画委員会委員長 : 千葉工業大学 社会システム科学部 教授 小笠原秀人

大会企画委員会副委員長 : 東京都市大学 環境学部 教授 岡田公治

千葉工業大学 社会システム科学部 教授 新谷幸弘

予稿集編集委員長 : 加藤智之

## 5. 国際P2M学会誌の編集と発行

2024年秋季大会学会誌発行スケジュール

学会誌 Vol.19, No.1 の発行 2024年11月20日 6報 発行

学会誌 Vol.19, No.2 の発行 2025年 4月中旬 発行予定

編集委員会：武富為嗣（委員長）、加藤智之（19巻1号の編集責任者）、  
中野健太郎（19巻2号の編集責任者）、論文査読委員

## 6. P2Mマガジンの企画と発行

本マガジンを学会外部からの情報も取り入れるプラットフォームと位置づけ、春季大会と秋季大会のテーマと関連した特集を組んで、2回発行した。

・21号特集 「ラウンドテーブル特集」（2024年6月14日発行）

特集1「GX人材育成のプログラムマネジメント」

特集2「P2Mで語る地域活性化」

特集3「P2Mを活用した現場改善」

・22号特集 「イノベーションを生み出すP2M」（2025年1月10日発行）

P2Mマガジン編集委員会：亀山秀雄（委員長）、吉川厚（副委員長）、中山政行、李洸昊

## 7. セミナーの企画と実行

昨年度に引き続き、セミナー動画4本（ウエビナー2401～2404）を掲載し、P2Mの普及と新領域開拓を進めた。動画の分野別内容は、循環型経済（CE）、SDGs、エコシステム戦略、社会課題解決・地域活性化関連である。セミナー動画の非公開化（会員特典化）による会員増の具体案を検討した。

セミナー企画委員会：久保裕史（委員長）、玉木欽也（副委員長）、岡田久典（副委員長）、  
大和田順子、亀山秀雄、関口幸治

## 8. 表彰活動

学会への功績を讃えて、下記7名を表彰した。

|         |   |                                     |
|---------|---|-------------------------------------|
| 学会賞     | 理事・評議員会議長・論文編集委員長<br>長貢献  | 武富為嗣（コーポレート・インテリ<br>ジェンス株式会社）       |
| 教育功労賞   | 評議員・論文編集委員・博士号取<br>得者多数輩出貢献   | 越島一郎（名古屋工業大学大学院）                    |
| 研究賞     | プログラムマネジメント方法論確<br>立・P2M 発展貢献   | 関口幸治（東京都市大学）                        |
| 学会活動功労賞 | 理事・評議員・大会企画／実行委員<br>長・事務局長貢献  | 和田義明（東京農工大学）                        |
| 学会活動功労賞 | 監事・事務局運営・プログラムマネ<br>ジメント P2M 適用貢献   | 白井久美子（BIPROGY グループ・ユニ<br>アデックス株式会社） |
| 研究奨励賞   | プログラムマネジメント・P2M 理論<br>拡張発展貢献  | 加藤智之（名古屋工業大学大学院）                    |
| 国際交流賞   | 韓国・南アジア国際交流活動推進・<br>ASIAN CONFERENCE ON INNOVATIVE<br>ENERGY & ENVIRONMENTAL CHEMICAL<br>ENGINEERING 開催貢献 | 李 洸昊：イ グァンホ（早稲田大学<br>大学院）           |

## 9. 学会誌の DOAJ(Directory of Open Access Journal)への掲載による広報

Vol.17 No.1 以降の全ての論文の本文 PDF に、「This work is licensed under CC BY-NC 4.0 international」が表示されている。

・学会誌品質改善チーム：田隈広紀（責任者）

## 10. 学会業務の平準化

11回の運営委員会で情報を共有し、各担当業務の稼働の平準化をはかり、担当者のインセンティブと責任のバランスが取れるように配慮した。

以上



## 【2024年度 事業収支報告】

### 1. 2024年度の事業収支報告について

本議案では、年度事業収支の計画・実績及び差異を説明します。ご審議の上、承認をお願いいたします。2024年度も前年度に引き続き財政基盤の強化に向けた諸施策を実施しました。主に研究発表大会の活性化と、事務業務の効率化等によるコストダウンにより財務基盤を保ち、昨年度に引き続き「繰越金」を確保することができました。

### 2. 会員数の推移説明

表1に、事業収入のベースとなる会員数の計画と実績の差異を示します。法人会員数は1社増加しましたが、正会員・学生会員ともに減少しました。財政健全化のためには、正会員と法人会員の増加に向けた施策を行う必要があります。

表1 会員数の推移（実績B:2024年3月末時点）

| 会員区分     | 2022年度末<br>実績（参考） | 2023年度末<br>実績 A | 2024年度末<br>実績 B | 差異<br>B-A |
|----------|-------------------|-----------------|-----------------|-----------|
| 正会員・名誉会員 | 163               | 158             | 155             | -3        |
| 学生会員     | 15                | 25              | 23              | -2        |
| 法人会員     | 5社                | 5社              | 6社              | 1         |

#### ① 正会員数

正会員の高齢化ならびに学会活動と通常業務との関係性が薄れたという理由による退会者が増えたため、前年よりも3名減少しました。新たな施策によって会員の増強に努めていく必要があります。

#### ② 学生会員数

正会員への移行や課程修了等の理由から学生会員数は減少しました。将来学会を牽引する若手会員を維持するため、魅力的なテーマ選定を行うなど、引き続き学生会員の増強を図っていく必要があります。

#### ③ 法人会員数

法人会員数は各社財政が厳しいにもかかわらず1社増加しました。法人の要望に合致した活動を行うことによって、引き続き勧誘努力を続ける必要があります。

### 3. 事業収入

表2に事業収入の計画・実績差異を示します。2024年度の事業収入に関して、秋季大会では、青山学院大学から20万円の補助金をいただき計画を上回る実績が得られました。学会誌発行业は掲載論文が減少したため、計画に対して低い収入となりました。

表 2 2024 年度事業収入計画と実績（単位：円）

| 収入項目       | 予算計画       | 実績         | 予実差異     |
|------------|------------|------------|----------|
| 1.前年度繰り越し  | 8,188,424  | 8,188,424  | 0        |
| 2.年会費・入会金  | 1,840,000  | 1,851,000  | 11,000   |
| 3.春季大会     | 605,000    | 518,000    | -87,000  |
| 4.秋季大会     | 605,000    | 653,912    | 48,912   |
| 5.論文誌掲載料a  | 900,000    | 330,000    | -570,000 |
| 6.前払金・利息他b | 0          | 13,911     | 13,911   |
| 7.寄付       | 0          | 0          |          |
| 収入合計       | 12,138,424 | 11,555,247 | -583,177 |

a：Vol.18-No2, Vol.19-No1論文掲載料

b：次年度前払金（年会費・大会参加費）と受取利息・他

#### 4. 事業支出

表 3 に 2024 年度の事業支出の計画・実績差異の集計を示します。春季大会および秋季大会開催事業では正会員の講演などに対する謝金を廃止するとともに、大会会場で現金の授受を行わないなど運営作業を効率化しました。2024 年度は表 2 に示した 4 つの事業収入に見合う支出におさえることができました。

表 3 2024 年度事業支出計画と実績（単位 円）

| 支出項目         | 当初計画      | 実績値       | 予実差異    |
|--------------|-----------|-----------|---------|
| 1.学会組織運営     | 770,000   | 667,542   | 102,458 |
| 2.事務所設置経費    | 600,000   | 558,040   | 41,960  |
| 3.春季大会       | 635,000   | 430,403   | 204,597 |
| 4.秋季大会       | 635,000   | 507,992   | 127,008 |
| 5.学会誌発行      | 350,000   | 349,000   | 1,000   |
| 6.マガジン発行     | 360,000   | 226,750   | 133,250 |
| 7.セミナー開催     | 220,000   | 181,990   | 38,010  |
| 8.表彰感謝状      | 100,000   | 60,855    | 39,145  |
| 9.研究・研修・普及資料 | 30,000    | 0         | 30,000  |
| 10.会員サービス活動費 | 30,000    | 0         | 30,000  |
| 11.一般社団 税    | 90,000    | 80,000    | 10,000  |
| 12.予備・手当     | 130,000   | 0         | 130,000 |
| 支出合計         | 3,950,000 | 3,062,572 | 887,428 |

当学会の会計責任者が作成した「国際P2M学会2024年度決算書」として（1）損益計算書と（2）貸借対照表を別紙に添付します。

本決算書は学会監事の監査により承認済です（予定）。

会員のご支援に感謝し、引き続き一層のご支援をお願いいたします。

以上

(別紙添付)

| 国際P2M学会 2024年度 決算報告書        |            |                |              |
|-----------------------------|------------|----------------|--------------|
| (但し、2024年3月1日～2025年2月28日まで) |            |                |              |
| (1) 損益計算書                   |            |                |              |
|                             |            |                | (単位：円)       |
| 収 入                         |            | 支 出            |              |
| 前期繰越                        | 8,188,424  | 事務運営費          | 667,542      |
| 年会費・入会金                     | 1,851,000  | 業務委託費(国際文献社)   | 558,040      |
| 春季大会                        | 518,000    | 春季大会           | 430,403      |
| 秋季大会                        | 653,912    | 秋季大会           | 507,992      |
| 論文掲載料                       | 330,000    | 論文(査読・編集等)     | 349,000      |
| 寄付                          |            | マガジン発行費用       | 226,750      |
|                             |            | セミナー関連費用       | 181,990      |
|                             |            | 表彰・感謝状関連       | 60,855       |
|                             |            | 研究・研修・普及資料     | 0            |
|                             |            | 会員サービス関連       | 0            |
| 前払い年会費・入会金                  |            |                |              |
| 前払い次年度春季大会参加費               | 13,500     | 法人都民税他         | 80,000       |
|                             |            | その他            |              |
|                             |            | 小 計            | 3,062,572    |
| 利息他                         | 411        | 総合収支           | 8,492,675    |
| 合 計                         | 11,555,247 | 合 計            | 11,555,247   |
|                             |            |                |              |
| (2) 貸借対照表                   |            |                |              |
|                             |            |                | 2025年2月28日現在 |
|                             |            |                | (単位：円)       |
| 科 目                         | 金 額        | 科 目            | 金 額          |
| I 資産の部                      |            | II 負債の部        |              |
| 1. 流動資産                     |            | 1. 流動負債        |              |
| 現金預金                        | 8,550,793  | 年会費前受金         |              |
| 普通預金(SMBC飯田橋支店)             | 739,489    | 春季大会参加費前受金     | 13,500       |
| 郵便振替預金(文京関口郵便局)             | 7,811,304  | 学会誌文掲載料前受金     |              |
| 現金                          |            |                |              |
|                             |            | 流動負債合計         | 13,500       |
|                             |            | 1. 固定負債        |              |
| 流動資産合計                      | 8,550,793  | 固定負債合計         | 0            |
|                             |            | 負債合計           | 13,500       |
|                             |            |                |              |
| 1. 固定資産                     |            | III 正味財産の部     |              |
| 固定資産合計                      | 0          | 前期繰越正味財産       | 8,188,424    |
|                             |            | 当期正味財産増加額(減少額) | 348,869      |
|                             |            | 正味財産合計(正味負債)   | 8,537,293    |
|                             |            |                |              |
| 資産合計                        | 8,550,793  | 負債及び正味財産合計     | 8,550,793    |

## 監査報告書

国際P2M学会の2024年度の決算報告書を詳細に監査した結果、  
全て適正に処理されており、正確であることを確認しましたので  
報告いたします。

令和7年（2025年）3月31日

監事 石川 千尋



## 【2025年度の基本方針と活動計画】

(事業期間：2025年4月1日～2026年3月31日)

### 1. 基本方針

#### 国際P2M学会の2つのミッション

本学会は、

オーナーの視点に立って、経営システムと技術システムを統合するプログラムマネジメントの知識体系の深化と実践研究を推進する事により、顧客の価値獲得を重視した共存共栄共創の持続可能な社会の構築に貢献する。

本学会は、

組織の全体使命のもとで複数のプロジェクトを有機的にマネジメントし、創造的統合マネジメントスキル手法を活用して、構想（スキーム）・構築（システム）・運営（サービス）が連結・交差した（3Sモデル）構成からなるプログラムマネジメントの知識体系を社会に提供する。

#### 国際P2M学会の2つのビジョン

(1) **国際社会への発信**：日本が世界に遅れを取っているビジネス効率性の低い要因である経営プラクティス分野の強化のためにプログラムマネジメントの知識体系が有効であることを具体的に社会に発信する。環境や省エネルギー分野での日本の国際的展開を支援するために国際協力事業におけるプログラムマネジメント知識体系の確立を目指す。

2025年創設20周年に5年後の2030年に向けたVision2030を提案し、2026年秋に日本で開催される第8回アジア革新的エネルギー・環境化学工学会議（ASCON-IEEChE2026）での本学会秋季大会との同時開催に向けた準備を進めると共に、P2Mマガジンの英語版ダイジェストを発信しプログラムマネジメントセッションで海外に日本版のプログラムマネジメントの有効性を示す。

(2) **人材育成への貢献**：政府のリスクリング支援のなかで、マネジメント人材育成支援を学会の方針として、PMAJと連携して博士人材と指導教員の醸成SIGの活動を通じて、各種教材作成、電子出版、オンライン講義配信、講習会企画、社会人博士人材育成、若手マネジメント人材育成のための活動を行う。学会としてリスクリング支援等の公的支援資金に応募し、学会財政基盤の確保と専従事務職員の確保を目指す。

社会人の会員数と法人会員の増加と協賛企業数の増加に繋がる魅力有る企画を目指す。

特に社会人博士人材育成を強化するため、論文指導の支援を行うとともに、対象として、企業会員だけでなく、政府系の競争的研究資金管理組織（ERCA, NEDO, JSTなど）の職員の高専専門職マネジメント人材育成のための支援を目指す。

## 2. 活動計画

2つのビジョン実現と学会創設20周年記念のため、2025年度は以下の活動を行う。

### 2. 1 運営委員会を中心にした4つの委員会の連携活動

研究発表大会の企画、論文誌の編集、P2Mマガジンの企画、セミナー企画の4つの活動を行う委員会と連携して、月1回の会合を行い、学会が目指すビジョンの達成に向けて前進する。

### 2. 2 PMAJの博士人材と指導教員の醸成SIGへの連携活動

PMAJのSIG活動への連携を深めるとともに、マネジメント教育を行っている大学と連携し、マネジメント力養成を必要としている企業とも連携して、国のリスクリテラシー教育支援等を活用して、産学官連携でプログラムマネジメント教育の強化と高度専門職職員としての博士号取得に繋がる支援活動を行う。

### 2. 3 研究発表大会の企画と実行

(1) 第39回春季研究発表大会

開催日：2025年4月19日(土)

開催校：東京都市大学 横浜キャンパス

開催形式：会場と配信のハイブリッド

基調講演1「サステナビリティを実現するイノベーションのためのシンセシスアプローチ」

東京大学 大学院工学系研究科 人工物工学研究センター 梅田靖 教授

基調講演2「サステナブルイノベーションの鍵 — アブダクションと共感」

東京都立大学 システムデザイン学部 機械システム工学科 下村芳樹 教授

パネル討論「サステナビリティ実現に向けたイノベーションを促進するには、何か必要か？」

パネリスト：東京大学 梅田靖 教授 東京都立大学 下村芳樹 教授

アイロボットジャパン合同会社 挽野元 代表執行役員社長

環境再生保全機構(ERCA) 亀山秀雄 社会実装支援コーディネーター

実行委員長：東京都市大学 環境学部 教授 岡田公治

実行副委員長：東京都市大学 環境学部 教授 佐藤真久

大会企画委員会委員長：千葉工業大学 社会システム科学部 教授 小笠原秀人

大会企画委員会副委員長：東京都市大学 環境学部 教授 岡田公治

千葉工業大学 社会システム科学部 教授 新谷幸弘

予稿集編集委員長：中野健太郎

## (2) 第40回秋季研究発表大会企画案

日時 : 2025年11月1日(土)

開催校 : 千葉工業大学

開催形式 : 会場と配信のハイブリッド

テーマ : 学会創設20周年記念講演

① 記念講演

② 国際P2M学会 Vision2030 策定委員会報告

パネル討論 : 国際P2M学会 Vision2030

実行委員長 : 千葉工業大学 社会システム科学部 教授 新谷幸弘

大会企画委員会委員長 : 千葉工業大学 社会システム科学部 教授 小笠原秀人

大会企画委員会副委員長 : 東京都市大学 環境学部 教授 岡田公治

千葉工業大学 社会システム科学部 教授 新谷幸弘

予稿集編集委員長 : 加藤智之

## 2.4 国際P2M学会誌の編集と発行

春季研究発表大会および秋季研究発表大会の投稿論文の中から学術的に優れた論文を選定して査読を行い、2025年9月に20巻1号、2026年3月に20巻2号を発行する。

編集委員会 : 武富為嗣(委員長)、加藤智之、中野健太郎(20巻1号の編集責任者)、

論文査読委員会 : 加藤智之(委員長)

## 2.5 P2Mマガジンの企画と発行

・P2Mマガジン編集委員会 : 吉川 厚(委員長)、李洸昊(副委員長)、

亀山秀雄(編集委員)他に2名編集委員を増やす)

本マガジンを学会外部からの情報も取り入れるプラットフォームと位置づけ、春季大会と秋季大会のテーマと関連した特集を組む他、学会創設20周年記念特集号を2026年3月に発行する。

23号特集テーマ

「サステナビリティ実現に向けたイノベーションとP2M」(6月10日発行予定)

第39回研究発表春季大会のテーマで午後の発表や討論内容を紹介

記事内容 : ラウンドテーブルで講演される方に原稿依頼して掲載すると共に、各テーマのはじめにラウンドテーブルの司会をされた方に議論のまとめの報告記事を書いて頂く。

23号以降(予定)

2026年1月 24号特集 秋季大会のテーマに関連した特集 Vision2030



2026年3月 25号特集 創設20周年記念特集号

P2Mの海外紹介用に今までのP2Mマガジンの記事から選択して英語版P2Mマガジンダイジェスト版を作成し、オンラインで海外に紹介する。

## 2. 6 セミナーの企画と実行

セミナー動画を知的資産として活用することにより、会員増と学会収支改善につなげる。具体的には、YouTubeで無料公開中の全動画を非公開化し、会員のみ閲覧可能な特典とする。但し、「P2Mの基礎知識（パート1,2）とFAQ」及び「論文の書き方（パート1～3）とプレゼン動画の作り方」については、無料公開を継続する。

その他4本のセミナー動画（化学工学への適用、統合マネジメントなど）を新規作成する。

[セミナー委員会] 玉木欽也（委員長）、岡田久典（副委員長）、久保裕史、  
大和田順子、亀山秀雄、関口幸治

## 2. 7 表彰活動

表彰規程に基づき表彰委員会を組織して、会員から、表彰者の推薦を募集し、それらを元に検討、審議して、各受賞者を決定し、表彰する。

## 2. 8 Vision2030 策定委員会の設置

2025年は、国際P2M学会創設20周年の年になることから、5年後の2030年の25周年に向けてのビジョンを各委員会、研究発表大会、論文誌編集、P2Mマガジン、セミナーの4つの委員会に加えて博士人材育成関連の会合で議論して、委員会のVision2030を作成して頂き、それらをまとめて、亀山、久保、白井、小笠原、玉木、岡田（公）、加藤（智）、吉川の8名からなるVision2030策定委員会で取りまとめて、秋季大会で発表する。

委員長は互選によって決める。

## 2. 9 研究会の設置

研究会を設置し、予算処置を行い、大会で研究会企画の発表セッションを設ける事により学会活動を活発にする。研究会設置の規則は別途定める。

## 3. 学会業務の平準化

運営委員会で情報を共有し、各担当業務の稼働の平準化をはかり、担当者のインセンティブと責任のバランスが取れるように配慮する。

以上

## 【2025年度事業収支計画】

2025年度の事業期間は2025年4月1日～2026年3月31日ですが過去の事業収支計画の期間に準じて、予算計画は2025年3月1日～2026年2月28日とし、2025年度の収支計画を提案します。

### 1. 会員数予測と前提

前年度会員数を基礎に本年度の努力目標を下記に設定します。目標実現に向けて会員のご協力とご尽力をお願いいたします。

表1 2025年度会員目標

| 会員区分  | 2025年3月末実績 | 2026年3月末会員目標 |
|-------|------------|--------------|
| 正会員   | 155名       | 160名         |
| 学生会員  | 23名        | 25名          |
| 法人会員* | 6社         | 7社           |
| 合計    | 178名+6社    | 185名+7社      |

### 2. 2025年度事業収支計画

2025年度の事業収入は、会員数ならびに春季・秋季大会参加者数の予測等を前提に事業収入を計画しました。表2は当該年度の事業収入に前期繰越金を参入したものです。

表2 2025年度の事業収入計画 (単位 円)

| 事業収入項目      | 収入計画       | 概要                                       |
|-------------|------------|--|
| 1. 年会費      | 1,890,000  | 220名(正会員160、学生25、法人7)(注1)                |
| 2. 春季大会開催事業 | 545,000    | 50名(正会員40、学生5、午後のみ5)(注2)                 |
| 3. 秋季大会開催事業 | 545,000    | 50名(正会員40、学生5、午後のみ5)(注2)                 |
| 4. 学会誌発行事業  | 660,000    | 22編(Vol.19 No.2:10編、Vol.20 No.1:12編)(注3) |
| 当該年度収入合計(あ) | 3,640,000  |  |
| 5. 前年度繰越し金  | 8,537,293  |  |
| 収入の部 総計(A)  | 12,177,293 |  |

(注1) 法人年会費50,000円, 年会費納入率: 正会員90%、学生80%を想定

(注2) 正会員9,000円、学生5,000円、午後のみ3,000円

(注3) 学会誌掲載料 Vol.19 No.2, Vol.20 No.1:30,000円

表3は2025年度活動計画を反映した支出計画です。表1の会員数を前提とした表2の収入計画を実現し、表3の支出計画の範囲で効果が十分期待できる活動に注力してい

く予定です。なお、支出の上限は、2023年度第3回理事会・評議委員会（2023年11月12日開催）議案5で了承された、予算支出計画は当該年度の収入計画と実績に対応したものを作るべきという考え方にもとづき、支出の上限額を収入計画364万円の110%（400万円）とします。

表3 2025年度支出計画 (単位 円)

| 事業収入項目            | 支出計画       | 概要                              |
|-------------------|------------|---------------------------------|
| 1.学会組織運営費         | 700,000    | 理事会等運営、会計業務、メールアドレス管理、備品購入等     |
| 2.学会事務所設置経費       | 650,000    | 国際文献社へ委託（学会事務所設置、会員管理、年会費納入管理等） |
| 3.春季大会開催費         | 394,000    | 予稿集編集、講演謝礼、HP運用、大会出納管理等         |
| 4.秋季大会開催費         | 464,000    | 会場費、予稿集編集、講演謝礼、HP運用、大会出納管理等     |
| 5.学会誌発行費用         | 265,000    | 論文査読、論文誌編集、公開に係る事務費             |
| 6.マガジン発行費用        | 302,000    | 原稿料、編集作業、公開に係る事務費、会議費等の費用       |
| 7.セミナー開催費用        | 100,000    | Youtube配信に使う教材作成、講師謝礼等          |
| 8.表彰感謝状制度関係費      | 40,000     | 表彰状・感謝状の作成や記念品・副賞等の費用           |
| 9.研究・研修・普及資料作成費   | 60,000     | 研究会立上げ支援等の費用（20,000円×3研究会）      |
| 10.会員サービス活動費      | 200,000    | データワークエリアなど会員サービスの費用            |
| 11. 20周年記念イベント等費用 | 300,000    | Vision2030策定委員会などで検討予定          |
| 12.一般社団 税         | 90,000     | 一般社団に関わる法務局や東京都に関する費用や税         |
| 13.予備・手当          | 75,000     | インボイス対応調査、大会参加者数変動等への引当準備       |
| 当該年度支出合計（い）       | 3,640,000  | 上限を収入計画の1.1倍（400万円）とする          |
| 13. 次年度繰越し金       | 8,537,293  |                                 |
| 支出の部 総計（B）        | 12,177,293 |                                 |

表4に事業収支計画を示します。

表4 2025年度事業収支計画 (単位 円)

| 項目   |              | 金額        |
|------|--------------|-----------|
| 収入計画 | 当該年度収入（表2 あ） | 3,640,000 |
| 支出計画 | 当該年度支出（表3 い） | 3,640,000 |
| 収支計画 | 前年度繰越し金      | 8,537,293 |
|      | 年度収支（あーい）    | 0         |
|      | 翌年度繰越し金      | 8,537,293 |

上記の収支計画の承認をお願いいたします。

以上

【定款第20条の変更に関する件】

起案者 久保裕史

議案内容

現在の定款第20条(1)を以下の通り変更する。

(現行) 第20条 当法人の理事は、3名以上10名以内とする。

(変更案) 第20条 当法人の理事は、3名以上30名以内とする。

提案理由

当学会の活動内容は近年多様化し、その負荷も増大しており、迅速かつ効率的な意思決定と、より強力な執行体制の構築が求められています。

現行の定款第20条(1)では、理事の定数は「3名以上10名以内」と定められていますが、この規定を「3名以上30名以内」に変更することで、組織体制の強化を図りたいと考えます。

今回の理事増員は、学会の更なる発展と運営体制の強化を目的としています。

具体的には、以下の2点を重視します。

1. 担当分野を明確にした理事の選任:

各理事が特定の分野を担当することで、専門性を活かした効率的かつ効果的な学会運営を推進します。

2. 産学の識見を有する理事の選任:

産学連携を強化し、学会の活動に大所高所からの意見を反映することで、学会の活動領域を広げ、社会への貢献をより一層促進します。

理事の増員により、組織体制の強化を図り、学会の更なる発展を目指します。

以上

2025年度年次総会 第4号議案

【2025年度人事について】

会長 亀山秀雄

以下の人事の候補者推薦につきまして、ご審議をお願いします。

(1) 理事 ① 任期満了にともなう理事の再任 (8名)

理事再任 亀山 秀雄  
理事再任 山本 秀男  
理事再任 久保 裕史  
理事再任 白井 久美子  
理事再任 小笠原 秀人  
理事再任 岡田 久典  
理事再任 沖浦 文彦  
理事再任 和田 義明

② 新任理事の推薦 (14名)

候補者 武富 為嗣  
候補者 内平 直志  
候補者 大和田 順子  
候補者 岡田 公治  
候補者 加藤 勇夫  
候補者 加藤 智之  
候補者 下田 篤  
候補者 新谷 幸弘  
候補者 玉木 欽也  
候補者 当麻 哲哉  
候補者 永井 祐二  
候補者 中野 健太郎  
候補者 湯野川 恵美 (伊藤 恵美)  
候補者 吉川 厚

(2) 監事 任期満了にともなう監事の再任  
監事再任 石川 千尋

以上

**【名誉会長の推薦】**

国際 P2M 学会創設 20 周年記念に際し、小原重信 名誉会員を名誉会長に理事会として推薦する。

理由：創立 10 周年記念時に吉田邦夫初代会長を名誉会長に推薦した。今回の 20 周年記念に際し、本学会の基本的理論である P2M の知識体系の創設者であり、本学会の発起人の一人であり、長年学会の活動と発展に貢献した業績を評価して、2 代目会長ならびに名誉会員である小原重信氏を名誉会長に推薦する。

## 2025年度年次総会 報告事項

### 2024年度表彰者

表彰委員会

国際P2M学会の2024年度表彰者を、表彰委員会（委員長、副委員長、委員 計5名）が表彰規程に則り、正会員及び名誉会員からの推薦書をもとに検討した結果、以下の通り決定したので報告致します。

学会賞                   : 山本 秀男 氏

教育功労賞           : (該当者無し)

学会活動功労賞       : 谷口 邦彦 氏

以上